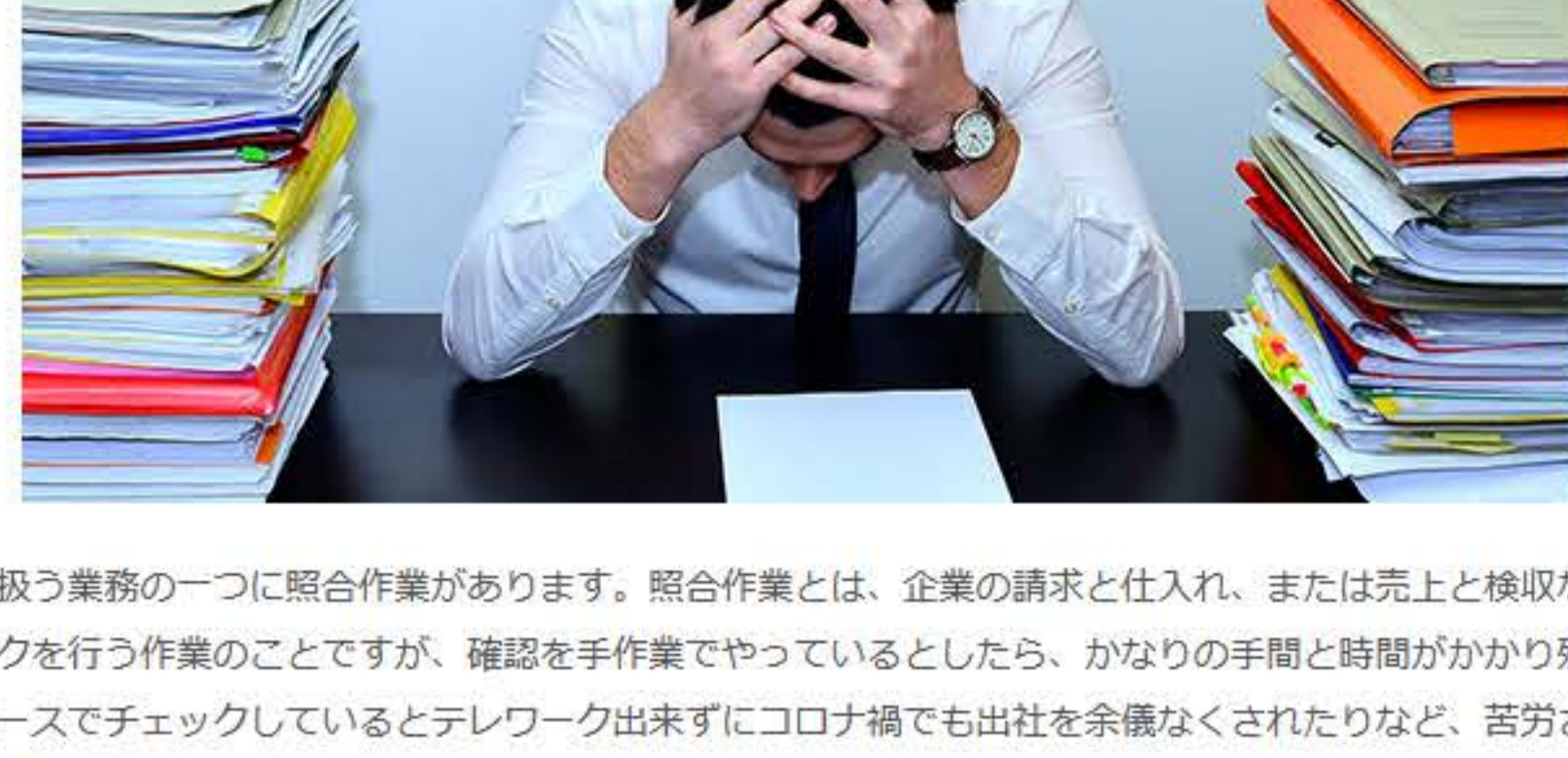


経理の現場にありがちな 照合業務の悩みを解決！



経理部門で取り扱う業務の一つに照合作業があります。照合作業とは、企業の請求と仕入れ、または売上と検取などのデータを付け合わせチェックを行う作業のことですが、確認を手作業で行っていると、かなりの手間と時間がかかり残業増加の原因になったり、紙ベースでチェックしているとテレワーク出来ずコロナ禍でも出社を余儀なくされたりなど、苦労されている経理部門の方々も多いのではないのでしょうか？

そんな手間のかかる照合作業も、システムを導入すれば短時間で機械的に完了させられますが、実情としては、照合システムを用いることなく社内の端末やイントラネット内にある特定のファイルによる照合作業を手作業で行っている企業がまだまだ多いです。

企業によっては照合システムを取り入れたいけれど従来の手法から大きく仕組みを変えることに不安がある、既存の紙ベースでの請求管理業務をデジタルに移行することが困難である、として導入に踏み切れないケースも多く見られます。

今回は、経理部門や会計作業の現場にありがちな照合作業に関する悩みを一気に解決する特許出願中の検取照合システム「T-check」を提供する東計電算の佐野氏に、照合作業に関する課題やその解決方法についてお話をお伺いしました。

[特許出願中「検取照合システム T-check」の詳細はコチラ>>>](#)

照合作業に関する企業の課題

照合作業における課題って？



・Excelや内製システムにて行っている場合、データの安全性や属人性に課題

企業によっては、この手間のかかる照合作業を、社内の端末やイントラネット内に保存しているExcelデータや、自前で制作した内製システムで管理しているケースがあります。こういった場合、ファイルの安全性が端末や社内環境に依存してしまうという課題があります。また、ファイルの作成者やシステムの製作管理者に修正や更新作業が依存してしまい、担当者が休暇をとったり、退職したりなどの際に不明な点が出てしまうという課題も持ち合わせています。

・請求データと仕入れデータ（売上データと検取データ）の照合に膨大な手間や時間がかかる

ファイルベース、または紙ベースでの照合作業を行っている経理部門では、その作業には膨大な時間と人的労力を必要とします。クラウドツールの導入などで多くの部門で業務効率化が進む中、経理担当者だけが毎月一時的に多くの残業を強いられるという悪循環があとを絶ちません。

また、日本国内でも働き方の多様化が進む傾向にあり、リモートワーク（テレワーク）が広がりを見せつつあります。経理部門の照合作業が上述した環境で特定のオフィス内で長時間の作業を行わざるを得ない場合、時代の流れにそぐわない働き方として企業にとっては大きな課題と言えるでしょう。

[照合作業に関するお悩みを解決！おすすめツールはコチラ>>>](#)

照合作業に関し企業が抱える課題の解決策

解決策って...？

人的補強？
外注化？
それとも...？



ではこれまで見てきた企業が抱える経理部門の課題に対しては、どのような解決策が有効なのでしょう。以下に考えられる解決策とそれぞれのメリット・デメリットを挙げてみます。

<解決策その1> 人材を補強する

照合作業における経理部門の課題を、人的補強で解決しようとする場合を考えてみましょう。

メリット

・作業時間を短縮できる。

デメリット

・属人化することで安定した稼働や運用が難しい。

・人的コストが肥大する。

照合作業は取引先が増えるごとにデータファイルの調整やシステムのバージョンアップなど更新作業が必要です。しかし、システムそのものを作った担当が何等かの理由で対応できない、または退職してしまった場合、永続的に安定して対応できる保証がないという、企業として大きなリスクが発生します。また人的コストがかさむことも企業にとってはマイナスと言えるでしょう。

<解決策その2> 外注化する

次に、照合作業における経理部門の課題を、外注化で解決しようとする場合を考えてみましょう。

メリット

・社内の人的リソースを割かずに作業時間を短縮できる。

デメリット

・セキュリティ面で社外への情報流出リスクがある。

・外注先企業の業務やセキュリティについてマネージメントが必要。

・システムの調整やバージョンアップなどの更新作業に時間とコストを要する。

外注化は社内での業務負担を減らすことができる一方で、長期的に見ると多大なコストを割く結果に繋がっているケースも見受けられます。

このように、人材の補強や外注化では経理部門が抱える課題の根本的解決のためには役不足と言えます。

そこでおすすめしたいのが、低コストで経理担当者の負担と企業のリスクを減らすことができる照合業務システムの導入なのです。

もっと見る >

特許出願中の検取照合システム「T-check」のポイントご紹介

概要

東計電算の照合システム「T-check」は、手間のかかる検取照合業務の自動化を図ることが可能です。AI（機械学習機能）を活用した自動照合機能により、検取書と売り上げデータや請求書と仕入れデータの照合時間や算出処理の作業を大幅に削減します。企業にとってリスクとなりうる特定の担当者に依存する属人化を削減し、煩雑な業務をより正確かつスピーディーに行えるシステムです。

買掛照合・売掛照合システム

- 独自開発の高速処理エンジンにより、10万件の照合を数分で完了
- 自動照合率90%以上の照合・消込で作業時間大幅削減可能
- 現場で培われた効率化ノウハウを多数実装
- 最短1か月で導入・稼働が可能
- 「自動車部品工業会」会員数424社（2020年10月1日現在）中、ご利用実績多数あり

「T-check」の特徴紹介

自動車部品メーカー出身元企業であり現在進行形で多くの現場で動いているSierならではの知見が詰まった照合システムです。およそ1000名が在籍する大企業Sierだから可能な迅速な導入スピードで経理部門の効率化を実現します。

・レイアウトマッピングが可能なので取引先毎に異なるレイアウトも統一レイアウトに変換

たとえば取引先が200社であっても、各社異なるフォーマットをワンフォーマットにスピーディーに置き換えます。

<p>①文字削除 指定した文字を削除します。 例) 「-」を削除</p> <table border="1"> <tr><th>登録</th></tr> <tr><td>A=001</td></tr> <tr><td>B00=02</td></tr> <tr><td>CO=03</td></tr> </table>	登録	A=001	B00=02	CO=03	<p>②文字切り取り 指定した位置の文字を切り取ります。 例) 4文字目から6文字目を切り取る</p> <table border="1"> <tr><th>登録</th></tr> <tr><td>A1=001A</td></tr> <tr><td>B2=002B</td></tr> <tr><td>C3=003C</td></tr> </table>	登録	A1=001A	B2=002B	C3=003C	<p>③文字変換 指定した文字を変換します。 例) 「-」を「+」に変換</p> <table border="1"> <tr><th>登録</th></tr> <tr><td>A=001</td></tr> <tr><td>B=002</td></tr> <tr><td>C=003</td></tr> </table>	登録	A=001	B=002	C=003
登録														
A=001														
B00=02														
CO=03														
登録														
A1=001A														
B2=002B														
C3=003C														
登録														
A=001														
B=002														
C=003														

※上記以外にもEXCEL関数同様に様々な変換・加工が出来ます

・請求先単位で照合パターン（照合キー）の複数設定が可能

最大10個の照合/パターン（照合キー）設定が可能。優先順位を設定して最初は細かく、徐々に大まかに照合するという独自の手法で高い照合率を誇ります。

<p>①多段階照合 複数の照合キーで、複数回照合を行うことが可能です。 例) 1回目注文番号で照合、2回目品番で照合など</p> <table border="1"> <tr><th>取引先</th><th>照合</th><th>品番</th><th>数量</th><th>単価</th></tr> <tr><td>A001</td><td>TC001</td><td>10</td><td>100</td><td></td></tr> <tr><td>B002</td><td>TC002</td><td>5</td><td>150</td><td></td></tr> </table>	取引先	照合	品番	数量	単価	A001	TC001	10	100		B002	TC002	5	150		<p>②条件照合 設定した条件を元に、明細単位で照合方法を変更出来ます。 例) 工場CD=1Aの場合、注文番号と品番で照合。 工場CD=2Bの場合、品番だけで照合。</p> <table border="1"> <tr><th>取引先</th><th>照合</th><th>品番</th><th>数量</th><th>単価</th></tr> <tr><td>1A</td><td>A001</td><td>TC001</td><td>10</td><td>100</td></tr> <tr><td>2B</td><td>B002</td><td>TC002</td><td>5</td><td>150</td></tr> </table>	取引先	照合	品番	数量	単価	1A	A001	TC001	10	100	2B	B002	TC002	5	150
取引先	照合	品番	数量	単価																											
A001	TC001	10	100																												
B002	TC002	5	150																												
取引先	照合	品番	数量	単価																											
1A	A001	TC001	10	100																											
2B	B002	TC002	5	150																											

・高度なOCR-AIを使って、データ（エクセルなど）で受領できない帳票やPDFの場合でもデジタルデータにして、検取データとして取込可能。

書面でやりとりしている現場でも、OCR-AIを使えば同じデジタルの土俵に変換することが可能です。「うちは紙なので」という理由で照合システム導入に踏み切れなかった企業のコスト削減と作業効率化をお手伝いします。



[特許出願中「検取照合システム T-check」の資料はコチラ>>>](#)

まとめ

今後、新しい働き方は日本国内でもさらに浸透し、業務を効率化する動きはますます加速するでしょう。そんな時代にふさわしい省力化と省人化を強力に推進する検取照合システム「T-check」。経理部門の業務効率化と安定した運用に向けてシステムの導入を検討中、または見直しを図りたい企業の担当者は、ぜひ下記WEBサイトで詳しい資料を請求してみてください。いかがでしょうか。

詳細資料はこちら >

「無料デモ体験」も実施中です。実際の数値やデータを活用して一部機能を実際にご覧いただけます。ぜひ、この機会に「T-check」の優れた機能をご体験下さい。

もっと見る >

株式会社東計電算

株式会社東計電算は自動車部品メーカーのシステム部門から生まれました。今後の自動車業界全体への貢献が期待され、多くのメーカーからの推薦を得て2020年6月に自動車部品工業会に参入。主に自動車部品や自動車関連メーカーなどを顧客として企業全体の基幹業務そのものを管理するシステムを手がけています。

なかでも東計電算の検取照合システム「T-check」は、外資系ERPでは行き届かない日本ならではの商慣習にも対応可能な独自の特徴を持ちあわせています。それは自動車部品メーカー出身である東計電算だからこそ実現した、現場での長年の経験と知見から生まれた賜物です。

株式会社東計電算 執行役員 佐野 真樹氏

タイのバンコク、日本国内の物流システム、製造システム営業部の3部門を管轄。日系企業向けのタイ国会計ERPパッケージシステム「swift」や、自動車部品メーカー向け基幹システム「A-mocion」などのERP（統合基幹業務システム）を手掛ける。

もっと見る >